



カラスノゴマ *Corchoropsis crenata* アオイ科

名古屋大学博物館友の会 NUM 友の会ニュースレター No. 81 2026 年新春号

新春に思う

足立 守

21 世紀もあっという間に 4 分の 1 が過ぎ、2000 年に創設された名古屋大学博物館もこの 4 月から 27 年目に入ります。AI 技術の発達とともにフェイク画像などの偽情報が以前に比べて飛躍的に増加しているので、本物の標本・資料の価値がますます大きくなっています。こうした中、フィールドや本物の標本から何を読み取るか、次世代の若者に AI ができないことにどう取り組むかを伝える博物館活動が重要になっています。

名大博物館の活動をいろいろと応援して下さった水谷伸治郎名誉教授（写真）が 2025 年 11 月 10 日に亡くなりました（93 歳、学究院頭功岩翁伸碩居士＝がっきゅういんけんこうがんおうしんせきこじ）。心からご冥福をお祈り申し上げます。



この紙面をお借りして博物館と水谷先生との関わりについて思い出すことを少し書いておきます。先生は博物館友の会が誕生した時からの会員（会員番号=8）で友の会の総会にも参加し、野崎さんが始めた“ミクロの探検隊”電子顕微鏡観察会では、子供たちに微化石放散虫の特徴を分かりやすく解説し、さらに博物館所蔵の膨大な数の放散虫化石の画像データベースを作成していただきました。

先生は日本を代表する地質学者の 1 人で、フィールドワークを中心に据えて、偏光顕微鏡、電子顕微鏡、オートクレーブ（熱水実験装置）、コンピューターなど、できることは全部やってみるという研究スタイルで多くの優れた業績を公表されました。とくに有名なものは、オートクレーブを使った堆積岩の続成作用（堆積物が堆積岩になる過程）の研究とジュラ紀の放散虫化石研究です。

“一流の人と付き合う”がモットーであった先生は、放散虫化石研究を始めるにあたって、その分野の第一人者であったテキサス大学の Pessagno（ペサニョ）教授のラボを訪れ、放散虫化石の分離・研究の問題点を把握し、帰国後に科研費で走査型電子顕微鏡を導入し、学生といっしょに研究に没頭されました。こうした雰囲気の中から、フィールドワークが好きで様々なことに興味を持つ多くの後進が育ったことが水谷研究室の特徴でした。

先生は研究と並行して、学生時代は名大の陸上競技部員として、教授になってからは陸上競技部部长として南京大学とのスポーツ交流（1982-2001 年）にも尽力されました。大学教育と運動部活動の観点から、第 9 回博物館特別展「スポーツと名古屋大学 - する・みる・つくる」について、“普通の大学博物館では見向きもされない、しかしひじょうに意義のある特別展を企画し、運動部 OB と現役部員との討論会を開催したことは特筆に値する”と評価してくださいました。



2006年3月22日(水)～9月30日(土) 入場無料

私が先生から本格的な指導を受けたのは修士 1 年になった 1969 年の夏（アポロ 11 号による人類初の月面着陸の年）の岐阜県野麦峠で、先生の第一声は“フィールドノートを見せなさい”でした。そして、さ～っと目を通してから、“君のフィールドノートにはスケッチが少ないね”と言われたことは今でもよく覚えています。修士論文のこと、地球科学教室のこと、70 年安保に伴う学園紛争のこと、1980 年のアラスカ調査のことなど、書いておきたいことは山ほどありますが、紙面の関係で別の機会にしたいと思います。

万葉の花 18

ササユリ

三矢保永

道の^へ辺の^{ふかくさ}深草百合の^よ花笑みに^よ笑みしがから
に 妻と言ふべしや

作者不詳 万葉集巻七 1257

大意 道端の草むらの百合が咲くように、私がちょっとほほ笑んだからといって、それをあなたの妻になってもよい仕草と受け取っては困ります。

注 “花笑み”は、花が咲くこと、あるいは咲いた花のような華やかな笑顔。挨拶代わりにちょっとほほ笑んだだけなのに、もう妻になるものと決められてもよいものでしょうか、いやそうではありません、という反語表現の修辞法です。上記の大意は女性視点（女性が詠んだ）で、男の求婚を拒否した歌とする現代流の解釈ですが、男性視点（男性が詠んだ）で、求婚を急ぎすぎた自分への反省・自戒の歌とする古典的な解釈もあります。解釈にもジェンダー問題が影響しているようです。百合は集中 11 首詠まれており、ササユリ、ヤマユリ、ヒメユリなどの総称とされています。いずれも相聞歌で、楚々としつつも鮮やかで際立つ花の体様、芳香を放ち風に揺れる風情から、女性の麗しさ淑やかさを譬喩しています。

参照文献 1：伊藤博 萬葉集釋注 集英社文庫

参照文献 2：山田卓三 万葉植物事典 北隆館



撮影 写真サークル 市枝真木子
撮影地 豊田市ささゆりの里

会員随想

矢並町の弾薬庫跡と木箱 (5) 完結編

山田富久

帰宅前に、案内の天野さんのお宅に寄り花崗岩を掘る時に使う短めのツルハシを拝見していると、天野さんの携帯が鳴った。先ほどのお宅で、木箱がさらに2つ見つかったとの連絡だ。さっそく引き返す。

中に入っている工具を出して、木箱の内外をよく見る。2箱とも、箱の外側に文字が書かれている。

「火薬板」「実包」「東一」「軽機」「機関銃」などと書かれている。東京都板橋区にあった陸軍の火薬製造所で造られた火薬を使ってできた弾薬（機関銃用）だと推測できる。「弾薬庫にあった弾薬を入れた木箱で間違いない。弾薬の種類が書かれた貴重なものだ」と言うと、



「ほしいならあげるよ」とのありがたい申し出。今回はバスで来たので近日中に引き取りに伺う、と約束して帰宅

した。

調べてみると、戦時中、東京第二陸軍造兵廠板橋製造所で火薬を作り、その火薬を使って隣接の東京第一陸軍造兵廠十条製造所で弾薬（実包）を製造していたと判明。その弾薬を詰めた木箱（弾薬箱）だった。製造時期は1941年と1942年である。80年以上前の歴史が突如目の前に現れたのだ。

話を急ごう。木箱の寄贈先を探すと、3候補あった。肝心の地元博物館は無関心で、名東区の資料館はかさばることを嫌った。最終的には、大津橋にある「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」に、4箱とも5月に寄贈した。

地元の方の協力があってこそ歴史の発掘が可能となる、と実感した忘れられない体験となった。



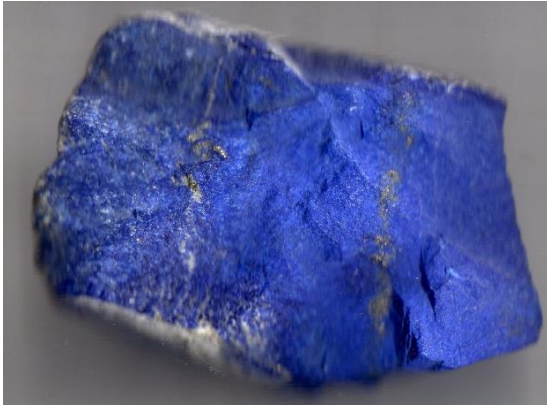
豊田市矢並町に疎開した弾薬庫の弾薬箱

Artist Earth 地球は芸術家 31

ラピス・ラズリ (lapis lazuli)

足立 守

濃い青色が特徴で 12 月の誕生石にもなっているラピス・ラズリ(写真)は、ラテン語で lapis が石、lazuli が青、つまり“青い石”という意味です。ラピス・ラズリのきれいな紺色は主要構成鉱物のラズライト(青金石、 $\text{Na}_8\text{-}_{10}\text{Al}_6\text{Si}_6\text{O}_{24}\text{S}_2$) 起源ですが、ラズライ



ト以外の鉱物も含まれているので、同じ石の中でも色はかなり違うことはよくあります。青以外で目立つのは白い方解石と金色の黄鉄鉱です。

ラピス・ラズリの産地は昔も今もアフガニスタン北東のパキスタン国境に近い山奥です。産出量が少ないこの貴重な青い石は金と同じ値段で取引されたこともあったようです。ラピス・ラズリは古代エジプトでも人気があり、ツタンカーメンの黄金のマスク



では大事な目の周りに使われています。

ラピス・ラズリは青の岩絵の具として古くから使われてきました。壁画としてはアフガニスタンのバーミヤン仏教遺跡が有名ですが、日本では高松塚古墳や法隆寺の壁画などで確認されています。

1704年にドイツで合成青絵の具(ベルリンブルー)が発明されるまでは、藍銅鉱やラピス・ラズリが主要な青の顔料でしたが、高価なラピス・ラズリは金持ちしか使えませんでした。フェルメールの絵はラピス・ラズリがふんだんに使われていることで有名ですが、それは裕福なパトロンがいたからです。

ラピス・ラズリはレオナルドダビンチの“最後の晩餐”にもたくさん使われていますが、裏切り者のユダだけには使われていません。絵の修復過程で明らかになったこの事実(謎?)にダビンチはどんなメッセージを込めたのでしょうか?

2025 年度書面総会

会員のコメントに対するお答え

1. ポタニカルアートサークルでの駐車料金補助

→基本的には公共交通機関でご来校いただくことになっています。他の学部等でも展示・施設見学やイベントにおいて駐車料金の補助はしておりません。大学の方針として補助はできない旨ご了承ください。[博物館より]

2. ポタニカルアートサークルの博物館本館での展示について

→博物館の展示計画や他のサークルとの兼ね合いから、博物館本館での定期的な展示は行わない方針です。植物関連の展示をする時にはぜひご協力いただきたいです。[博物館より]

セミナーハウスでの展示となりますが、酷暑は避けるよう 2027 年度以降展示期間を考慮いたします。

3. チラシに「友の会会員募集」と入れる件

→展示のチラシに掲載すると、2つの連絡先を記載することになり混乱する恐れがあります。

友の会で会員募集のチラシを作成していただければ、チラシを学外の機関に送付する際に同封することは可能です。友の会の入会案内をもう少し目立つところに設置することも可能です(現在は窓口周辺)。

[博物館より]

4. 年度初めに全員の顔合わせ

5. 企画委員を募集する。

→友の会の総会で意見をいただき、具体化します。



マユハケオモト *Haemanthus albiflos* ヒガンバナ科 (野外観察園)

ボラン
募集
集集

友の会では随時ボランティアを募集しています。ニュースレターの発送など、一緒に活動しませんか?

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。Eメール: hakubututomo@gmail.com

野外観察園 2025～26 冬

吉野奈津子

今年は急に冷え込んだので紅葉がきれいでしたね。紅葉狩りを楽しまれた方も多かったことと思います。イヌビワの黄色、イロハモミジの赤、アカガシワは目の覚めるような赤色で、観察園も色とりどりに色づき、きれいでした。紅葉を楽しんだ後は落ち葉との戦いです。観察園では掃き集めた落ち葉は腐葉土にしています。林の中にたまった落ち葉も、かき分けると下の方はボロボロで土のようになっています。袋などに入れ、水分を与えて圧縮してやると分解速度は早まります。米ぬかなどがあれば少し加えるとなお良いでしょう。袋いっぱいの落ち葉も水をかけると驚くほどコンパクトに。5倍以上は入ります。体育館裏に並んでいるゴミ袋は腐葉土づくりのために、決してゴミ放置ではありません。見苦しいなと思いつつも既設のたい肥枠だけではとても場所が足りませんでした。今年はバイオネストを作ったのでゴミ袋からは卒業予定。バイオネスト自体も木材の水分が抜けていくのか、だんだん隙間ができて小さくなってくるので、適宜落ち枝や剪定木を追加しています。剪定したらバイオネストの周りに挿せばよいので廃棄物は大幅に減りました。うまく観察園内で循環させていきたいです。まだまだ試行錯誤は続きます。



イヌビワ *Ficus erecta* クワ科



アカガシワ *Quercus rubra* ブナ科



ニシキギ *Euonymus alatus* ニシキギ科



バイオネストが活躍中

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2025年12月22日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767 (博物館事務室) F A X : 052-789-5896 (博物館事務室)

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000円 (4/1～3/31) 10/1～3/31 に入会した場合は 500円 (次年度は 1000円)

家族会員制度あり (同居の家族 1名まで年会費を免除)

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九 (ゼロハチキユウ) 店番 (089) 当座 0166807